

誤薬をなくす取り組み

～落薬ゼロを目指して～



ニッセイ聖隷クリニック 看護課
○足立侑香 岡本美也子

はじめに

自己管理が
可能であるか
アセスメント

個々に合った
方法で工夫

今までの対策が
有効に
働いていない？



リスク報告
の約30%が
内服薬に関
するもの
特に**落薬**が
多い



目的

看護師の意識変容・行動変容を目指して
意識調査と勉強会を行い、落薬リスク件数を
ゼロにする

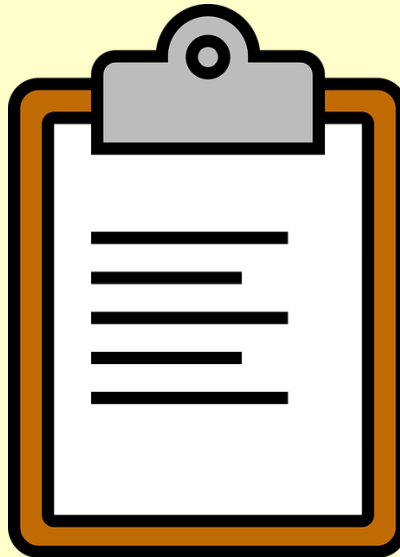
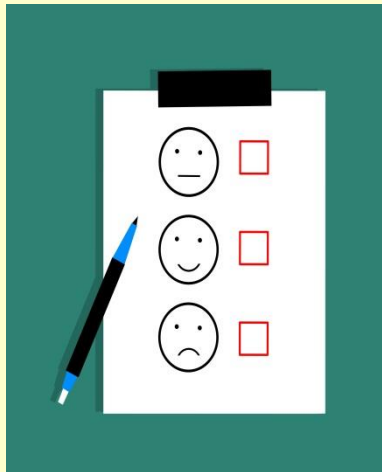
期間：2018年10月～2019年8月

対象：看護師17名



倫理的配慮

データについては個人が特定されないよう配慮し、職場会で研究の目的と内容を説明し、アンケートの協力について同意を得た



方法

①2016年4月～2018年3月のクリニックのリスク 報告書から誤薬に関するデータを収集・分析

②薬のリスクに関する 意識調査(1回目)

Q2: 次のうち誤薬と思われるもの
に✓をつけてください

- ☐ 飲み忘れ
- ☐ 飲み過ぎ(患者間違いも含む)
- ☐ 薬の落下

薬のリスクに対する意識調査アンケート

Q1: 看護師 経験年数 () 年 所属経験年数 () 年

Q2: 次のうち誤薬と思われるものに✓をつけてください

- ☐ 飲み忘れ
- ☐ 飲み過ぎ(患者間違いも含む)
- ☐ 薬の落下

Q3: 服薬介助に自信を持って出来ていますか?

- ☐ 十分な自信を持って出来ている
- ☐ だいたい自信を持って出来ている
- ☐ 多分自信を持って出来ている
- ☐ 少し自信がない
- ☐ かなり自信がない
- ☐ 全く自信がない

Q4: 服薬介助の方法について実際に行っている方法に✓をつけてください(複数回答可)

- ☐ 患者の手のひらにのせる
- ☐ 直接口に入れる
- ☐ スプーンで口に入れる
- ☐ 薬杯に入れて口に入れる
- ☐ 開封した袋を手渡す

Q5: 自己管理している患者の服薬確認はどうしていますか?

[]

Q6: 服薬介助で、患者がうっかり薬を落としたり、口の中に入った薬が出てしまって「ひやっ」とした経験はありますか?

- ☐ ある
- ☐ ない
- ☐ わからない

☆☆裏へ続きます☆☆

③薬のリスクに関する勉強会

④服薬方法の工夫

⑤毎月の職場会で薬のリスクに関する

対策周知・評価

(4～8月)

⑥薬のリスクに関する

意識調査(2回目)



服薬介助に自信がありますか
☐ 十分な自信を持って出来ている
☐ だいたい自信を持って出来ている
☐ 多少自信を持って出来ている
☐ 少し自信がない
☐ かなり自信がない
☐ 全く自信がない

薬のリスクに対する意識調査アンケート

Q1：看護師 経験年数（ ）年 所属経験年数（ ）年

Q2：次のうち誤薬と思われるもの全てに✓をつけてください

- ☐ 飲み忘れ
- ☐ 飲み過ぎ（患者間違いも含む）
- ☐ 薬の落下

Q3：服薬介助に自信を持って出来ていますか？

- ☐ 十分な自信を持って出来ている
- ☐ だいたい自信を持って出来ている
- ☐ 多少自信を持って出来ている
- ☐ 少し自信がない
- ☐ かなり自信がない
- ☐ 全く自信がない

Q4：服薬介助の方法について実際に行っている方法に✓をつけてください（複数回答可）

- ☐ 患者の手のひらにのせる
- ☐ 直接口に入れる
- ☐ スプーンで口に入れる
- ☐ 薬杯に入れて口に入れる
- ☐ 開封した袋を手渡す

Q5：自己管理している患者の服薬確認はどうしていますか？

[]

Q6：2019年4月以降 服薬介助で、患者がうっかり薬を落としたり、口の中に入った薬が出てしまっ

「ひやっ」とした経験はありますか？

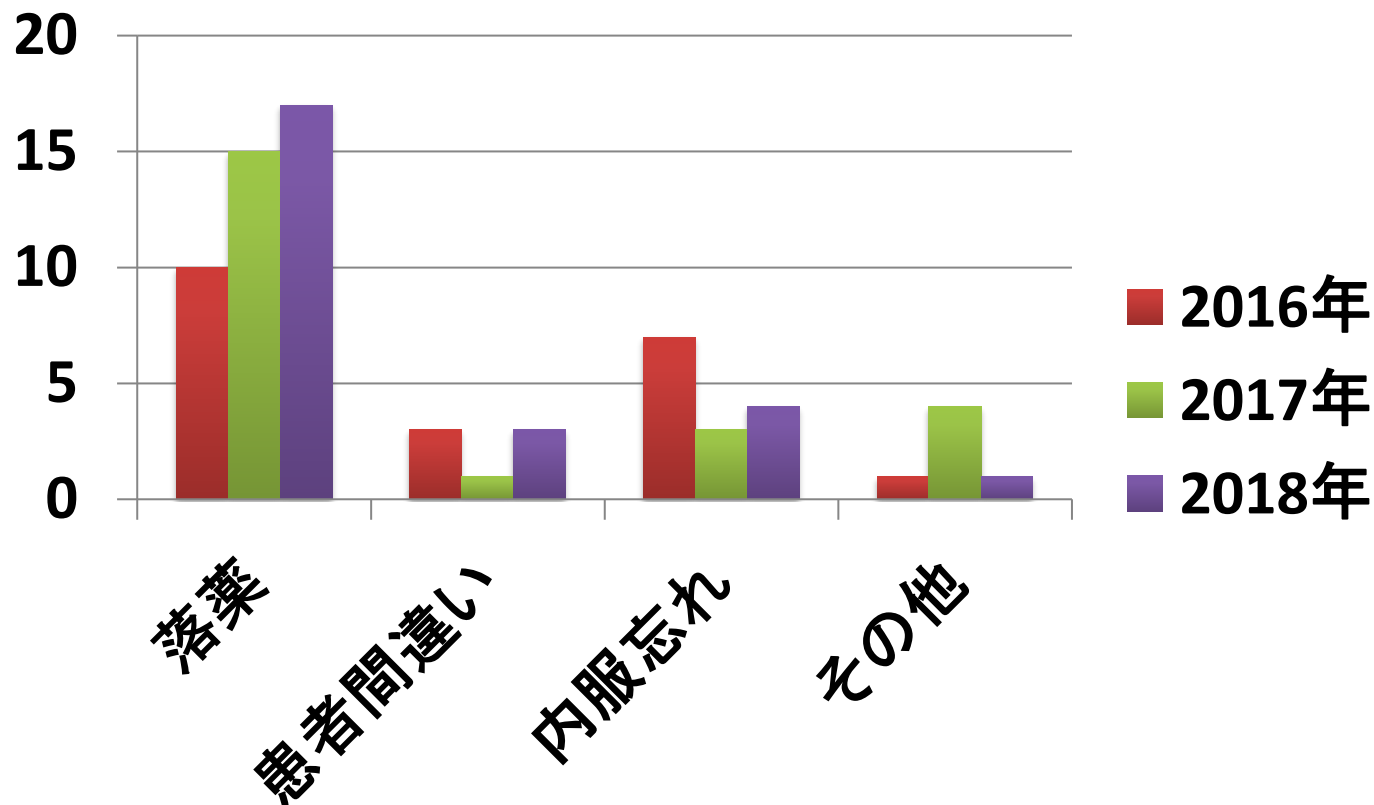
- ☐ ある
- ☐ ない
- ☐ わからない

内服薬
リスク
内訳

結果

過去3年間のリスクの約30%が
内服薬に関するリスク

件数

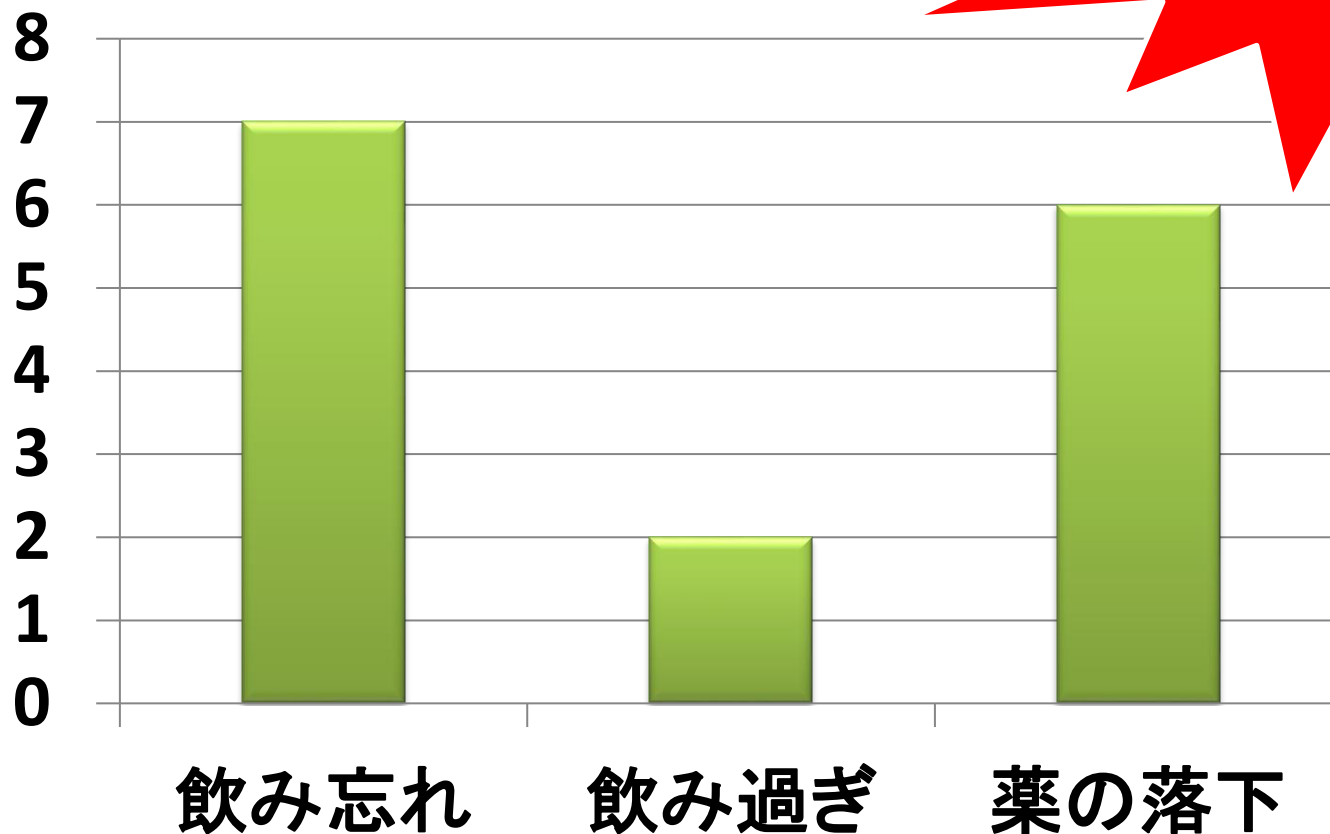


1回目意識調査の結果

誤薬について

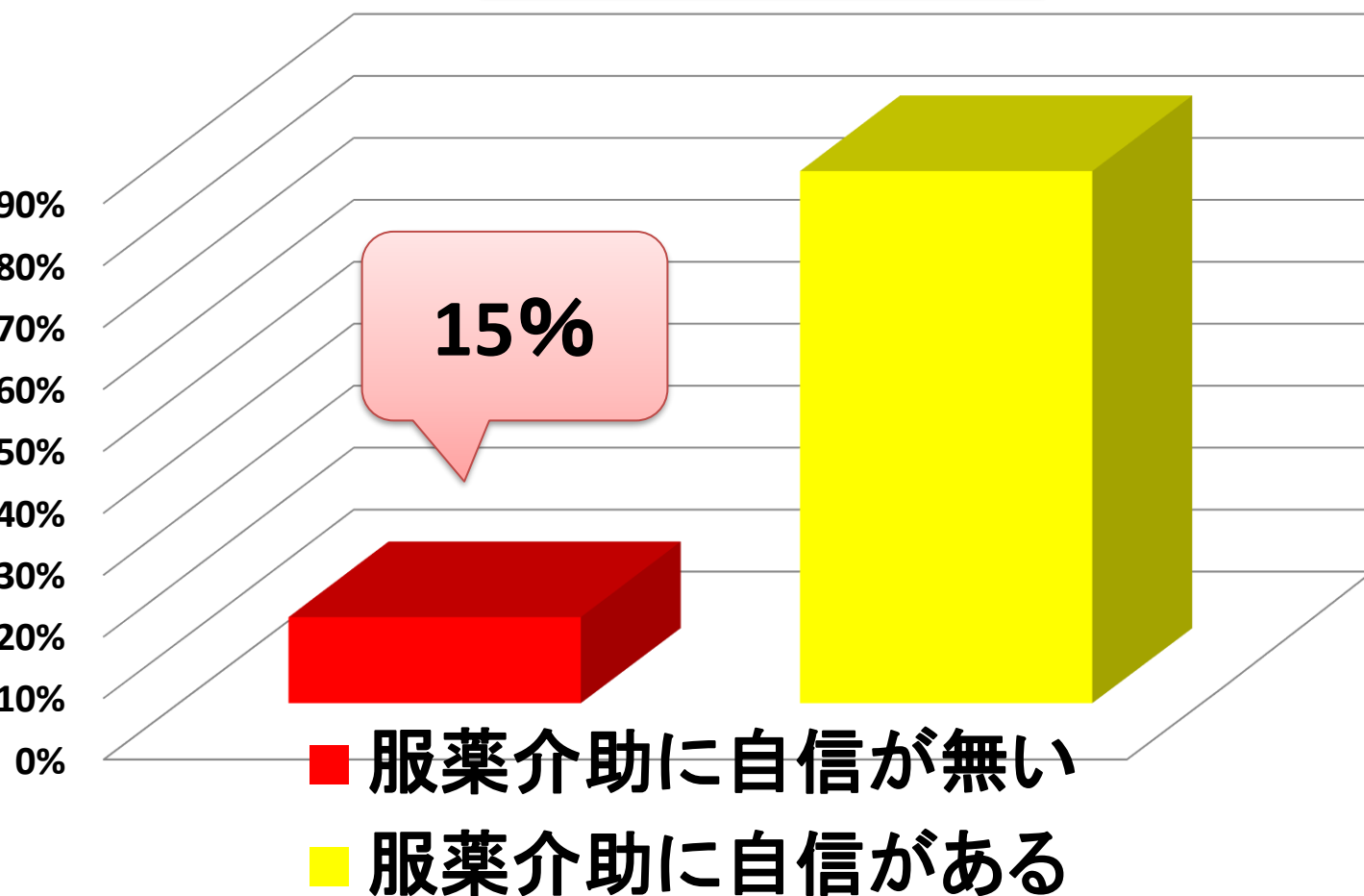
誤薬と認識して
いない

人数



服薬介助について

1回目意識調査





服薬介助を 意識変容・行動変容両面から アプローチが必要！

勉強会

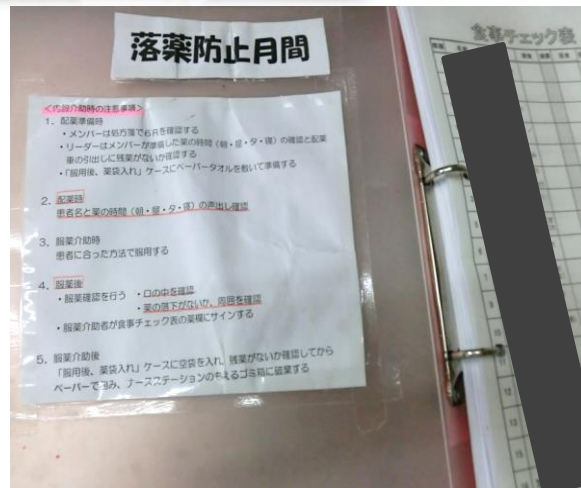
「誤薬とは」
「6Rの再確認」
「服薬介助方法の
シミュレーション」



リスクを起こさない対策を
考える事ができた

ロールプレイ方式の勉強会
は実感が湧いた

服薬介助 マニュアル作成



多剤併用になりやすい



多剤併用リスク



薬の調整

対策の評価が
行われていない

職場会で対策の
周知・評価を実施



リスク共有

配薬業務の
改善

2回目意識調査の結果

誤薬について

誤薬との
認識が高まった

人数

8

7

6

5

4

3

2

1

0

■ 1回目

■ 2回目

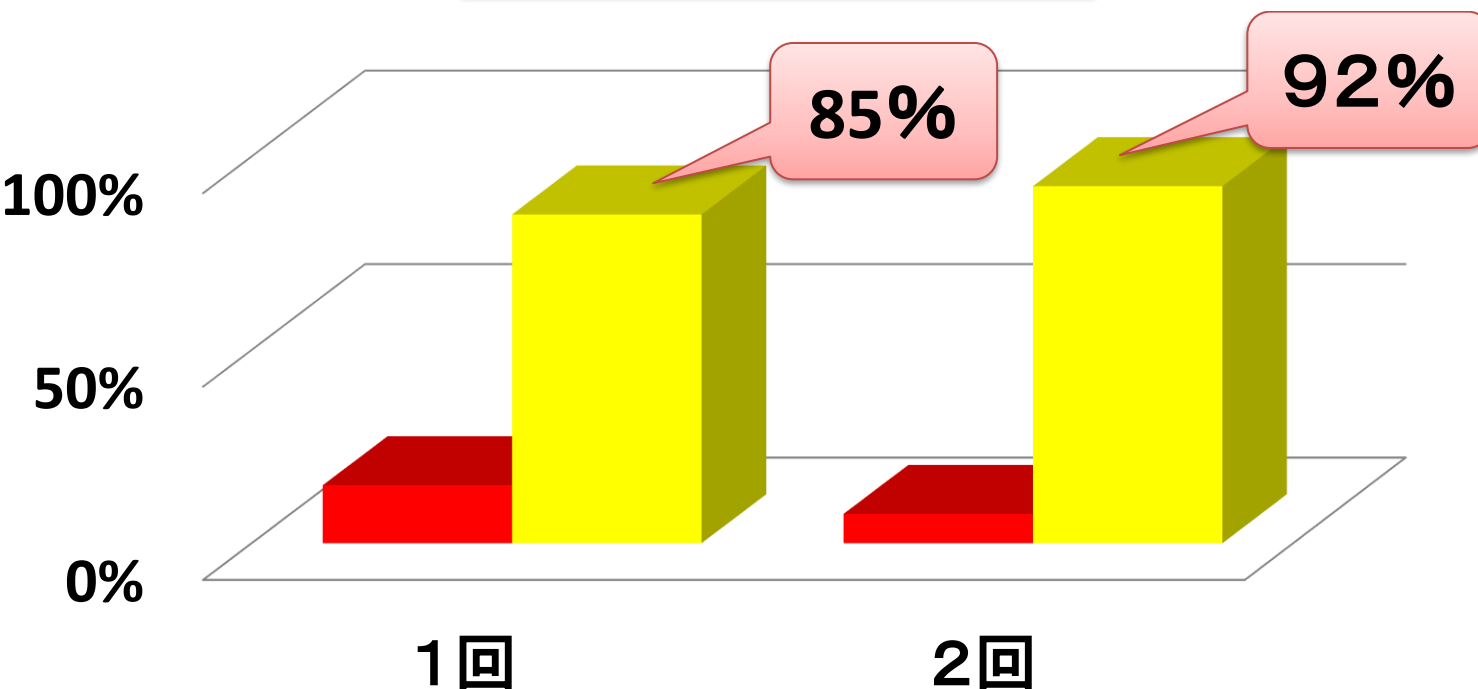
0人

飲み忘れ 飲み過ぎ 薬の落下



服薬介助について

2回目意識調査

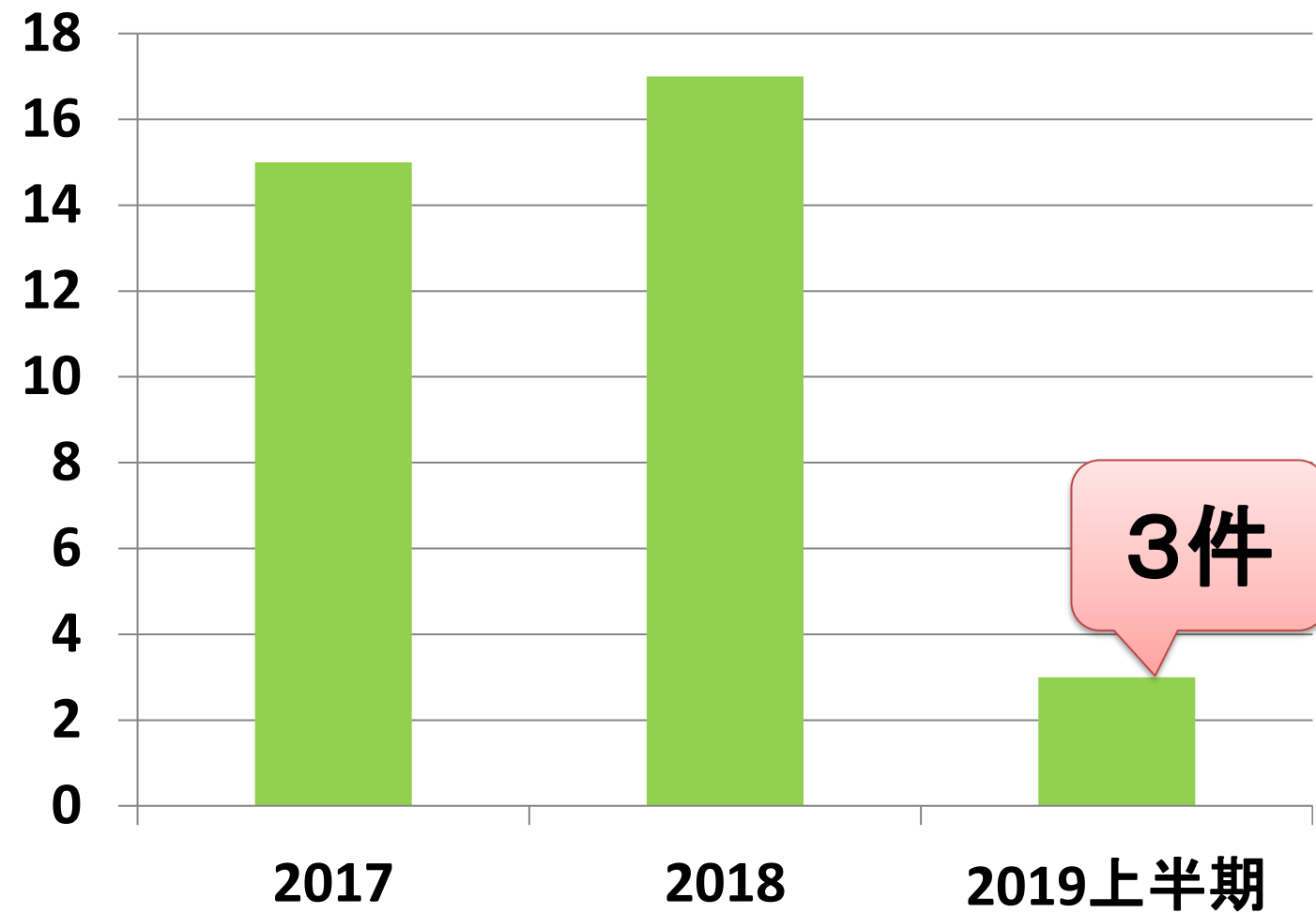


■ 服薬介助に自信が無い

■ 服薬介助に自信がある

落薬件数

件数



考察

平均年齢
85歳



内服薬管理
ができない
患者90%

1回目の意識調査⇒認識のばらつき

勉強会

6Rの
徹底



服薬介助に
自信が持てない



高齢患者独特の
服薬行動



・飲み込みができず一部出てしまう

・義歯の裏に付着していて落薬

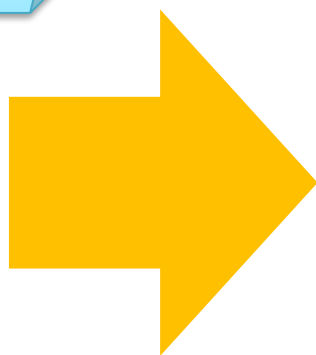
シミュレーション

マニュアルの可視化

2回目の意識調査では92%の職員が
自信を持って行えると答えている

国家 プロジェクト

6～8種類の
多剤併用

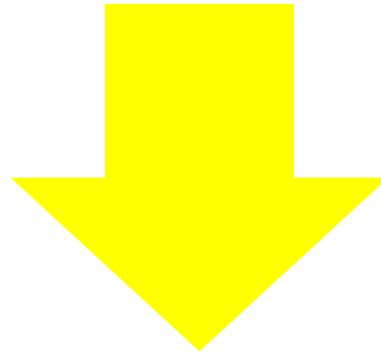


服薬
負担軽減

誤薬リスク
減少

職場会で評価

ダブルチェック
方法



配薬業務

業務量軽減



患者の状態に合った服薬介助方法の
検討が
大切

終わりに

意識向上

業務改善



薬剤の影響は大きく看護師の誤薬が原因で治癒を妨げることがないよう、薬剤管理を徹底していかなければならない。

誤薬ゼロを
目指す



ご清聴ありがとうございました

